

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372201109		
法人名	株式会社サンケイ		
事業所名	グループホームチアフル 音明かり・詩明かり (詩明かり)		
所在地	愛知県一宮市北方町曾根字村裏西46-1		
自己評価作成日	令和5年8月25日	評価結果市町村受理日	令和6年3月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「生きているってすてき」と思える家づくりが我がグループホームの願い。利用者本人の尊厳を守り、認知症からくる生活障害は援助することによって、あるいは皆と力を合わせることによって、生活を送ることができるはずと模索している。たとえ認知症の進行があったとしても、その人ならではの役割づくりに着目しながら生活している。日々の活動では、天気の良い日には散歩に出かけ認知症があっても普通に生活している様子を知らせるがグループホームの使命だと思っている。生活の中では楽しみになることとして、外出や外食等も行っている。また児童館の子供たちと交流を持ち、昔遊びの道具を使っては子供たちと一緒に楽しんでいる。昔遊びの名人が子供たちの前で腕前を披露する姿が得意げで相互交流に意義を感じている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&Jigy-osvoCd=2372201109-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号
聞き取り調査日	令和5年9月15日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	基本理念はフロア・スタッフルームなど見やすい所に貼っている。月1回ミーティングで唱和出来るようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	児童館の会や公民館の文化祭に参加させていただいて、地域交流を大切にしている。外出時には地域の方々に積極的に挨拶を行い繋がりを深めるようにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	中学生ボランティアを受け入れ認知症の理解や介護について学んでいただく機会があった。地域の方から認知症についての悩み・相談もあり、地域の方へ認知症の理解を深める支援に努める。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	5月より対面で2か月おきに開催予定。各ユニット毎に活動状況の報告を行い、地域の方から意見やアドバイスを参考にしながらサービス向上に活かしている。また、地域の情報も引き出せるようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	主にリーダーや管理者が、運営推進会議で意見交換を行いながらサービス向上に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束虐待防止委員会を設置し、3ヶ月毎に各ユニットで拘束の項目に沿って集計・検討・目標設定、評価をしている。年2回研修を行い、職員同士話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	自分や他の職員の状況・状態を観察しながら、心理状態に気づき、職員同士協力して、虐待が発生しないように身体拘束委員・管理者にアドバイスや指示を仰ぎながら虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護・成年後見人については学べていない。今後学んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、ご利用者様、ご家族様の些細な疑問や不安が無いように話を聴き、安心して頂ける関わりをもつように努めている。わかりやすい言葉で説明するように心掛けながら行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族様が面会に来られた時は、コミュニケーションを積極的に図り、話しやすい環境作りに努めている。関係性を築きながらご家族様の意見を反映できるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	年2回、管理者とリーダーと面談の機会があり職員が相談・要望・意見など話せる環境を作っている。ミーティング・委員会・行事等、職員の意見をもとにケア等に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年2回の面談時、個々に目標を決めている。職員の行いたい事が出来るように環境を整えと共に、職員同士助け合いながら、互いに労いの言葉をかけ働ける環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	毎月内部研修がある。力量に合わせ外部研修の参加も勧められる。勉強で学んだ事を職場で活かせるように職員の性格・力量にあった行動力・判断力が身に付けれるように支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	同グループ内の研修・会議等で交流する場があり、意見交換し質の向上に繋がるように努めている。他事業所と交流がない。尾張地区のネットワークがあるが参加できていない。関係を深めていきたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人の表情・仕草等、見落とさないように心がけコミュニケーションを図りながら信頼関係に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご利用者の情報提供を頂きながら、ご家族様の要望・悩みなど聞き出せる環境作り、何でも話せる関係が出来るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	毎月のユニットミーティングにてアセスメント・カンファレンスを行いご家族様・ご利用者様のケアについて話し合ったり、出来る事を出来るだけ継続、又他に出来ることを見極めながら支援に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	人生の先輩として知らないこと・出来ないことなどを教えて頂きながら共に生活をしている。洗濯・買い物・掃除・調理などを一緒にしながら一人の人として家族のような関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご利用者様がその人らしく生活が出来るように、ご家族様にご利用者様の現状をお伝えし、何でも話せる関係作りに努め信頼関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会者の受け入れや外出等を勧めたり、不安になっている方には会話の中に安心される方の名前を取り入れて関係が途切れないように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	他者の関係性に配慮しながら席位置を決めている。ご利用者様同士の関りを大切に支えあえるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスが終了しても、今までの関係性を大切に、必要に応じてご利用者様・ご家族様をフォローし困らないように相談・支援の場となるように努めている。いつでも来設出来る雰囲気作りを心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その人らしい生活を送って頂けるように要望・希望を把握するように努め、一人ひとりの思い・暮らし方に少しでも近づけるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族様・アセスメントシートからの情報収集をしながら、生活歴・生活環境を把握し、これまでの生活を尊重しながら生活が出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	タブレットを使用しケアプランに沿って入力している。日々の生活の中で些細な変化やいつもと違う様子と感じたら時間に関係なくその時の様子・状況を入力するようにも努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	月に一度ユニットミーティングで介護計画を中心にカンファレンスを行い、職員同士で意見交換・情報を共有しながら、介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個々の記録の記載・口頭での申し送り・申し送りノートを見て情報共有しながら個別記録・介護計画書の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	利用者様一人一人合ったケアの実践できるように、状態の観察に努めている。その方に合ったサービスの提供に心がけながら取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	職員が毎月行う事を考えながら、ご利用者が個々の力を発揮出来るように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	急変時や毎月2回往診時、些細な事・質問・疑問など報告し、適切な指示・指導などを頂きいつでも連絡出来る体制である。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師は常勤ではないが、月1回看護の日・月2回の往診時診て頂いている。又、ご利用者様に異常・変化に気づいた時にはいつでも連絡が出来る環境である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は注意点などの情報交換に努め担当医師・看護師・ソーシャルワーカーの方々に連絡し状態・注意などを聴き、病院との関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	医師・看護時・管理者・ユニットリーダー・他の職員と話し合いを行い方針を決め、ご本人様・ご家族様の要望などを聞きながらその方にとって一番良いケアが出来るようにチームで共有しながら支援に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時のマニュアルはあるが自信はない。その時々状態、状況に合わせて日頃から勉強会にも参加し実践に活かせるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害時のマニュアルはある。ユニット内でも防災訓練(水害・災害・地震・夜間帯)を行い、災害に備えて備蓄をリュックサックに準備し災害に備えている。又、避難場所も把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	相手の事を考えコミュニケーションを図り、一人の人として尊重している。ご本人の気持ち・プライバシーに注意し、声のかけ方・大きさ・仕草に気配りながら対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	個々のペースに合わせ焦らず、ゆっくり自己決定をして頂ける様に努め、その人らしい生活が出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご利用者様中心のケアを心がけ、可能な限り要望に添えるように努め、個別ケアを行っている。団体行動はあまりお好きでは無い方には無理に誘わず、個別に楽しんでいただけようように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	移動美容院が2ヶ月に1度来て頂き本人が望むヘアスタイルを考えてカットして頂くように努めている。起床時も職員と一緒に好きな服を身につけて頂く様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	献立・買い物・調理・食事・片づけなど一緒に行うように努め、自分が出る喜び・達成感を感じて頂き、個々の残存機能を把握し可能な限り参加して頂ける様に支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの食事・水分等の摂取は違うため、その方に合った調理方法・盛り付け・味付け・摂取量・トロミ剤を使用したりして職員が把握し食べて頂ける様に工夫に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食事にその方の力量に合わせて口腔ケアに努めている。自立の方には声かけを行い、介助が必要な方には出来る所は行って頂き、出来ないところを職員がお手伝いさせて頂くように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄チェック表を用いて個々の排泄パターンを把握して、それぞれの排泄パターンを記録に残し個々の合った声かけ・誘導に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食物繊維の多い食べ物や水分摂取を勧め、軽い運動を行っている。必要時、ホットパックや整腸剤・下剤等、服薬も併用し自然排便に努め支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	入りたいという気持ちになって頂けるような環境作りに努め、入浴剤などでリラックスして快適入浴ができるように支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	昼間の活動を多く取り入れ昼夜逆転しない様に努めているが、その時の状態に応じて対応している。又、不安な時は傾聴し安心して眠れるように支援している。季節に合わせた寝具も使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の副作用などに注意し、変化が見られた場合はすぐ対応出来るように観察を行っている。今後も薬の目的を理解し症状の変化の確認に努めていきたい。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人一人の出来る事を見つけ、日々活躍できる場面を作るように努めている。一人一人の能力を活かしながら、楽しく笑顔が絶えない生活を送って頂けるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ご利用者様の意見や要望を聴き、計画を立て外出時には楽しんでいただけるように支援していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理は職員が行っているが、週1回移動販売(ローソン)に職員と一緒に買い物に出かけ、好きな物を購入し見守りながら自分で買い物ができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙のやり取りは今現在は見えないが、月2回利用者様の現状・状況を伝える時には会話が出来るように努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ユニットにて行った行事などの写真・習字・はり絵・季節の作品などを、共有空間に貼り見て楽しんでいただけるように工夫している。場面にあった有線を流したり、温度調整にも気を付けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	他者との交流がお好きな方・1人で過ごされたい方には、それぞれ個々の空間で過ごして頂ける様に配慮し、無理強ひすることなく本人の意思を尊重しながら、レクリエーション等の参加もして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人様のお好きな物・愛着のあるものを持って来て頂き、住み慣れた環境に近づけ違和感なく安心した生活を送って頂ける様に工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレ・居室など名前を記入した紙を張って出来るだけ自立した生活が送れるように工夫し、不安が見られる時は職員が対応し少しでも出来る様に努めている。		